

## 平成 26 年度情報科学技術分野における研究評価計画（案）

平成 26 年 5 月 1 日  
情報科学技術委員会

### 1. 評価の目的

本委員会は「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（平成 26 年 4 月最終改定 文部科学大臣決定、以下「評価指針」）及び「研究計画・評価分科会における評価の実施について」（平成 26 年 4 月 10 日科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会）に基づき、新規課題については必要性、有効性、効率性の観点から評価を行い、その推進、修正等の判断を行う。また、継続課題については、進捗状況を評価した上で効果的な実施の観点から研究内容の見直し等の提言を行う。終了課題については、目標の達成度を確認するとともに、研究成果の更なる発展や活用に向けた方策等の提言を行う。

### 2. 評価対象課題

#### (1) 事前評価

平成 27 年度新規予算要求課題

#### (2) 中間評価

##### ① 社会システム・サービスの最適化のための I T 統合システムの構築（H24～H28）

（研究代表者：国立情報学研究所 安達淳 教授）

##### ② イノベーション創出を支える情報基盤強化のための新技術開発

耐災害性に優れた安心・安全社会のためのスピントロニクス材料・デバイス  
基盤技術の研究開発

（研究代表者：東北大学 大野英男 教授）（H24～H28）

##### ③ イノベーション創出を支える情報基盤強化のための新技術開発

高機能高可用性情報ストレージ基盤技術の開発

（研究代表者：東北大学 村岡裕明 教授）（H24～H28）

#### (3) 事後評価

該当なし

### 3. 評価方法

#### (1) 事前評価

委員会主査は、平成 27 年度新規予算要求課題の評価のために委員会を開催する。委員会においては、当該課題の必要性、有効性、効率性の観点から評価を行った上で、事前評価票（様式 1）を作成し、研究計画・評価分科会に報告する。

#### (2) 中間評価

委員会主査は、上記 2. の課題①～③の評価のために委員会を開催する。各委員は課題ごとに提出される自己点検結果報告書（様式 2—1）及び委員会での研究実施者

による発表を受け、中間評価シート（様式 2 - 2）に記載の各評価項目及び別添の論点に基づき評価を実施する。

各委員が作成した中間評価シートを基に、本委員会において中間評価票（様式 2 - 3）を作成し、研究計画・評価分科会へ報告する。

### （3）事後評価

本年度は、評価対象課題が無いため特に取り決めない。

なお、評価に係る委員会の議事及び資料は、原則として公開とするが、公平性の確保等の必要に応じ、主査の判断により部分的に非公開とすることができる。

## 4. 評価日程（予定）

以下の日程で委員会を開催し、2. に示した課題の評価を実施する。

平成 26 年

5 月 1 日	2.（2）課題①～③の中間報告会
7 月 8 日	2.（2）課題①～③の中間評価の審議
8 月 5 日	2.（1）平成 27 年度新規予算要求課題の事前評価の審議

## 5. 評価結果の構成

- ・平成 27 年度新規予算要求課題（事前評価）  
表紙－委員会名簿－課題概要ポンチ絵－事前評価票（様式 1）
- ・2.（2）課題①～③（中間評価）  
表紙－委員会名簿－課題概要－中間評価票（様式 2 - 3）

## 6. その他

- ・必要に応じて会議の開催に代えてメール等の手段により、委員の意見を提出することができるものとする。
- ・評価票（案）については、あらかじめ評価対象となる課題の内容に応じ、専門分野が近いなど特に深い知見を有する委員の意見を聞いた上で作成し、委員会で審議することができるものとする。
- ・議事録については、発表者による学会発表等の時期を考慮し、記載内容について柔軟に対応するものとする。

## 事前評価票

(平成〇〇年〇〇月現在)

1. 課題名 〇〇
2. 開発・事業期間 平成××年度～平成△△年度
3. 課題概要 〇〇・・・・・・・・ ※ 課題の目標を明確にすること。
4. 各観点からの評価
(1) 必要性 ※ 以下の例を参考に適切な評価項目を抽出し、評価基準を設定 科学的・技術的意義(独創性、革新性、先導性、発展性等)、社会的・経済的意義(産業・経済活動の活性化・高度化、国際競争力の向上、知的財産権の取得・活用、社会的価値(安全・安心で心豊かな社会等)の創出等)、国費を用いた研究開発としての意義(国や社会のニーズへの適合性、機関の設置目的や研究目的への適合性、国の関与の必要性・緊急性、他国の先進研究開発との比較における妥当性、ハイリスク研究や学際・融合領域・領域間連携研究の促進、若手研究者の育成、科学コミュニティの活性化等)その他国益確保への貢献、政策・施策の企画立案・実施への貢献等
(2) 有効性 ※ 以下の例を参考に適切な評価項目を抽出し、評価基準を設定 新しい知の創出への貢献、研究開発の質の向上への貢献、実用化・事業化や社会実装に至る全段階を通じた取組、行政施策、人材の養成、知的基盤の整備への貢献や寄与の程度、(見込まれる)直接・間接の成果・効果やその他の波及効果の内容等
(3) 効率性 ※ 以下の例を参考に適切な評価項目を抽出し、評価基準を設定 計画・実施体制の妥当性、目標・達成管理の向上方策の妥当性、費用構造や費用対効果向上方策の妥当性、研究開発の手段やアプローチの妥当性、施策見直し方法等の妥当性等
5. 総合評価 実施の可否の別とその理由、中間評価・事後評価の実施時期、今後研究開発を進める上での注意点など

### 自己点検結果報告書(中間評価用)

※青字で書かれた補足説明については、提出の際は削除してください。

課題名: \_\_\_\_\_

#### 1. 課題概要

#### 2. 研究開発目標

※ 課題における研究開発目標を記述してください。研究開発項目ごとに研究開発目標がある場合は、それぞれ記述してください。

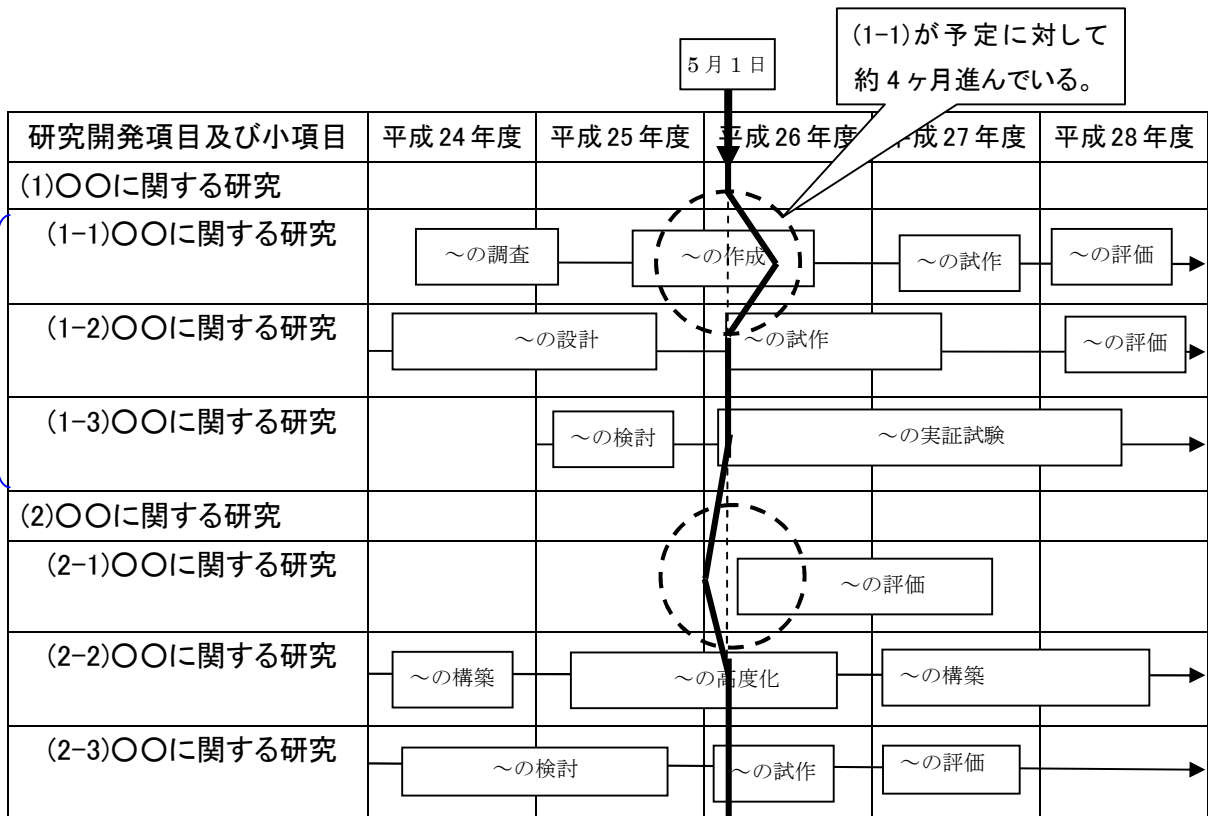
#### 3. 課題の進捗状況等(平成26年5月1日時点)

##### (1)進捗状況及び研究開発成果等について

###### ①研究開発計画及び進捗状況(平成26年5月1日時点)

※ 研究開発の小項目ごとの計画を下表のような形式で図示してください。各小項目ごとの平成25年5月1日時点での進捗状況については、下表に例示するように、予定より早く(又は遅く)小項目の研究が進んでいる場合は、その状況を太線の折れ曲がりによって表示し、その解説も記述してください。

小項目ごとに図示



※ 補足説明が必要であれば、この部分に記述してください。

## ②研究開発目標及び研究開発計画の変更理由と対応

※ 2. 及び3. (1)①に記載した目標や計画が事業開始当初から変更されている場合は、その変更内容を下表のような様式で記述するとともに、この下の〈参考〉に当初の目標及び計画を記述してください。

変更する事項	変更理由	対応
(2-1)〇〇に関する目標の変更	〇〇〇〇のため	〇〇〇〇を〇〇〇する
(2-2)〇〇に関する計画の変更	〇〇〇〇のため	〇〇〇〇を〇〇〇する

※ 補足説明が必要であれば、この部分に記述してください。

### 〈参考〉

#### ・ 事業開始当初の研究開発目標

※ 当初の研究計画目標から変更がある場合、変更部分がわかるように当初の研究計画目標を記述してください。変更がなければ不要です。

#### ・ 事業開始当初の研究開発計画

※ 当初の研究開発計画から変更がある場合、変更した項目について当初の研究開発計画を記述してください。変更がなければ不要です。

小項目計画図示

研究開発項目及び小項目	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
(1)〇〇に関する研究					
(1-1)〇〇に関する研究	～の調査	～の作成	～の試作	～の評価	→
(1-2)〇〇に関する研究	～の設計	～の試作		～の評価	→
(1-3)〇〇に関する研究		～の検討	～の実証試験		→
(2)〇〇に関する研究					
(2-1)〇〇に関する研究			～の評価		
(2-2)〇〇に関する研究	～の構築	～の高度化	～の構築		→
(2-3)〇〇に関する研究	～の検討	～の試作	～の評価		→

### ③研究開発成果について(平成 26 年 5 月 1 日時点)

※ 3. (1)①の研究開発項目ごとに、平成 26 年 5 月 1 日時点での具体的な成果を記述してください。

※ 参考として、学術的活動の成果(論文、学会発表、受賞等)や社会への情報発信活動(メディアへの情報発信、ウェブサイト等での情報公開、広報活動等)の実績を箇条書にて別添にまとめ、報告してください。

### ④独創性・優位性について

※ 国内外の関連する分野における他の研究開発の現状と比較し、研究開発の内容の独創性・優位性を具体的かつ可能な限り定量的に記述してください。

### ⑤必要性・有効性・効率性について

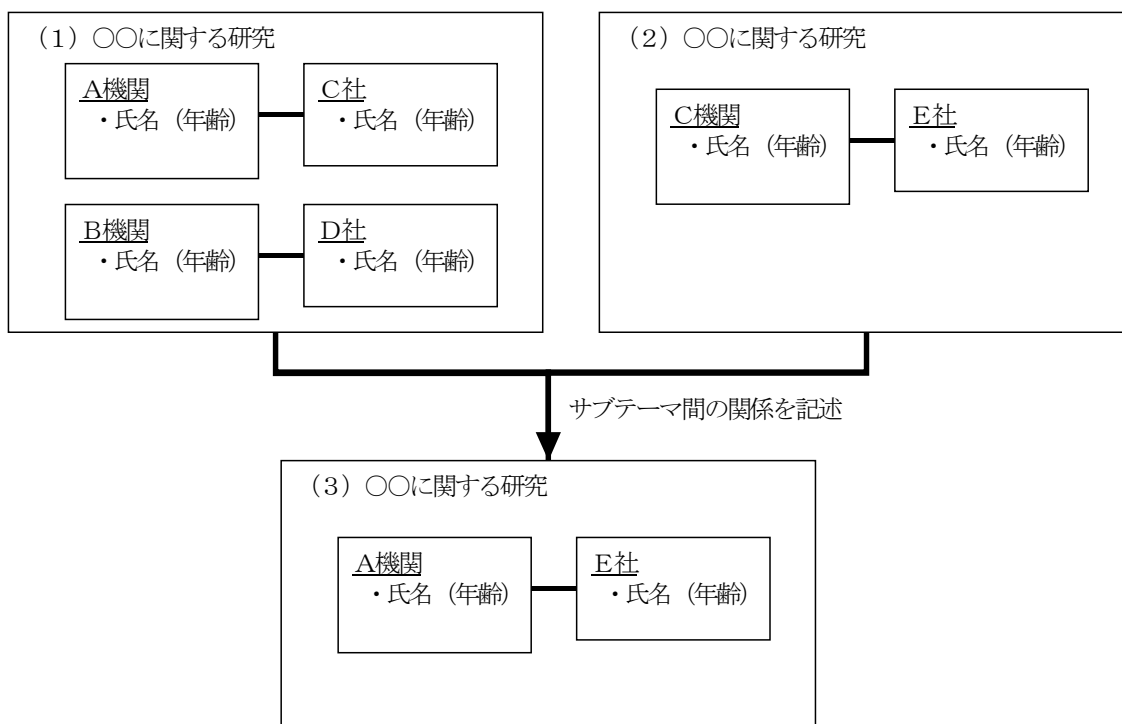
※ 事前評価において設定された「必要性」、「有効性」、「効率性」における各評価項目について、その評価基準の要件を満たしているか記述してください。

## (2)研究開発体制について

※ 各機関の役割分担、研究代表者のリーダーシップを発揮できる仕組みなど、研究開発体制が本課題を適切に実施していく上でどのように機能しているかについて、具体的な機関名を明確にしつつ図表等を用いて簡潔に記述してください。

また、他のプロジェクトと連携等を行っている場合は、その内容についても記述してください。

### (記載例)



## (3)成果の利活用について

※ 研究開発の成果の利活用に関して実施している方策の内容(実用化に向けた方策、成果の普及方策、標準化等)を具体的に記述してください。

※ 参考として、特許等出願・取得・利活用状況を箇条書にて別添にまとめ、報告してください。

#### **4. その他**

※ 中間評価の報告内容における留意点がありましたら、記入してください。

中間評価シート

評価者名： \_\_\_\_\_

※ご退出の際は、本シートを机上に置いたままでお願いいたします。

課題名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

(研究代表者 ○○大学 △△ △△)

(1) 進捗状況及び研究開発成果等について

(2) 研究開発体制について



(3) 成果の利活用について

(4) その他について

(評価メモ)

- \* 本評価メモは、各課題について、特に個別のコメントがある場合には、御自由に記載をお願いいたします。なお、本メモは、中間評価の対象とはせず、各課題の代表者にお渡しし、今後の研究開発推進の一助とさせていただきます。御退出の際は、本シートを机上に置いたままでお願いいたします。

課題名：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

(研究代表者 ○○大学 △△ △△)

ご意見：

## 中間評価の論点

### (1) 進捗状況及び研究開発成果等について

研究開発目標の達成に向け、研究開発計画が適切に設定され、その着実な進捗の下、適切な研究開発成果が出ているか。また、その内容は国内外の関連する分野における他の研究開発の現状と比較し、本施策の研究開発の内容が独創性・優位性を有しているか。また、事前評価において設定された「必要性」、「有効性」、「効率性」における各評価項目について、その評価基準の要件を満たしているか。

### (2) 研究開発体制について

各機関の役割分担、研究代表者のリーダーシップを発揮できる仕組みなど、研究開発体制は本施策を実施していく上で適切に構築され、機能しているか。改善すべき点はあるか。

### (3) 成果の利活用について

研究開発の成果の利活用に向けた方策の内容（実用化に向けた方策、成果の普及方策、標準化等）は適切か。改善すべき点はあるか。

### (4) その他について

以上の論点とは別に、評価すべき論点はあるか。その場合、その論点に関する取り組みは適切か。

## 中間評価票

(平成〇〇年〇〇月現在)

1. 課題名 〇〇
2. 評価結果
(1) 課題の進捗状況                      ※進捗度の判定とその判断根拠を明確にする ※ 課題の所期の目標の達成に向けて適正な進捗が見られるか ※ 事前評価において設定された「必要性」、「有効性」、「効率性」における各評価項目について、その評価基準の要件を満たしているか
(2) 各観点の再評価と今後の研究開発の方向性 ※ 最新の社会情勢を踏まえた上で、当初設定された「必要性」、「有効性」、「効率性」の各観点における評価項目及びその評価基準の妥当性を改めて評価し、必要に応じてその項目・基準の変更を提案する ※ 新たに設定された項目・基準に基づき、課題の「継続」、「中止」、「方向転換」を示す
(3) その他